

学校教育目標：心やさしく 進んで学び たくましく生きる子どもの育成

「ゆずりはの心」

「誇り」「伝統」「魂」を受け継ごう！



みなさん、「ゆずりは」という樹木をご存知でしょうか。その細長い楕円形の葉は、正月飾りにも使われています。（鏡餅の下に敷いたり、しめ縄につけてあったりしますね）

この木の特徴は「新しい葉がある程度まで成長すると古い

葉と新しい葉とが交代する」ということです。冬の間中、寒さにじーっと耐えて枝に付いているのですが、暖かくなった春になると、葉がぽろりと落ちます。その落ちた葉の後には、次に出てくる若い芽がちゃんと育っているというのです。この古い葉は、冬の寒さから若い芽を守って自分の役割を終えて落ちていくのです。その姿が自分の命を次の葉にゆずっていくということで「譲り葉」・・・「ゆずり葉」と名付けられたのだそうです。新旧の世代が交代して代々続き、絶えることがないことから縁起物として庭木やお正月の飾り物として用いられています。

このゆずり葉の姿、「ゆずりはの心」は、ちょうど今の時期の子ども達の立場や姿に似ています。3ヵ月後の春に控えた進学、進級に向け、6年生は最高学年、リーダーとしての役割を5年生に伝え、ゆずっていきます。5年生は6年生からしっかりと受け継ぐことができるように、備え、学んでいく時期なのです。



もちろん、それは他の学年の子ども達にも言えることです。5年生は4年生に、4年生は3年生に、3年生は2年生に、2年生は1年生に、そして1年生は今年度小学校に入学してくる新しい1年生の為にいろいろ学んだことや考えたことを伝え、ゆずっていくのです。



今年度も残りはわずかです。（学校へ来るのは6年生あと47日、1～5年生あと49日）この3ヵ月は一年間のまとめの時期であると同時に、次の学年への進級のための大切な準備期間でもあります。

4月からの新学期に向け学校でのそれぞれの仕事や役割を上級生から引き継ぐと共に、下級生へと伝えていかなければならない時期、スムーズなバトンタッチのための助走の期間です。



「ゆずりはの心」に学んで、あとを受け継ぐ新しい学年や友達のために、何をゆずったらよいのか、そのために何をどうすればよいのか、残りの日々の中で、個人で、学級で、よく考えて、まとめてほしいと思います。

この3か月の「ゆずりはの心」を伴った活動は、子どもたちを大きく成長させてくれる大きなチャンスであると考えます。私たち教職員は、子ども達の「ゆずりはの活動」が充実し、「輝く命」や「よいこと」「美しいもの」などを大切に、神浦小学校のよりよい「誇り」「伝統」「魂」を一生懸命につくっていきけるよう、子どもたちを支え、導いていきたいと思っています。